

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-152596

(P2014-152596A)

(43) 公開日 平成26年8月25日(2014.8.25)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E O 4 F 13/07 (2006.01)	E O 4 F 13/00 C	2 E 1 1 O
E O 4 F 13/08 (2006.01)	E O 4 F 13/08 G	
	E O 4 F 13/08 H	

審査請求 未請求 請求項の数 8 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2013-35138 (P2013-35138)	(71) 出願人	513012680
(22) 出願日	平成25年2月6日(2013.2.6)		河原 学
			兵庫県豊岡市竹野町須谷1032
		(74) 代理人	100088867
			弁理士 西野 卓嗣
		(72) 発明者	河原 学
			兵庫県豊岡市竹野町須谷1032
		Fターム(参考)	2E110 AA40 AA60 AB04 AB23 BA03
			BB01 CA04 GA22X GA32W GA32X
			GA33Y GB02X GB16Y GB63W

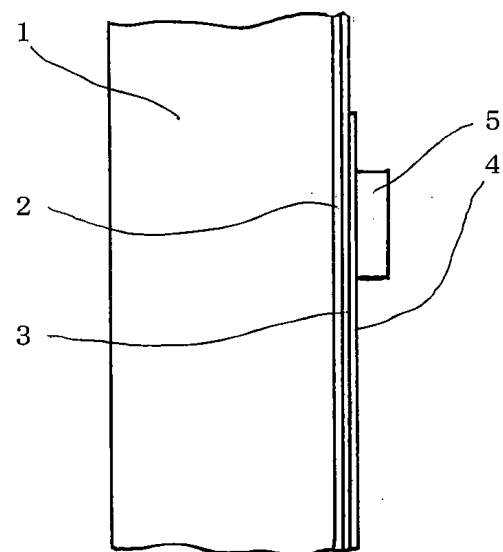
(54) 【発明の名称】 壁部材とその製造方法および使用方法

(57) 【要約】

【課題】 一般の壁部材は、石膏ボードなどの非磁性体の表面に非磁性体の壁紙が張着されており、磁石は吸着しなかった。

【解決手段】 本発明は、支持部材の表面に磁性薄板が張着され、当該磁性薄板の表面に壁紙が重畳されている。従って、前記壁紙の表面に、当該壁紙を介して前記磁性薄板に磁石を吸着させることができ、当該磁石と前記壁紙との間に用紙類を着脱自在に挟持させることが可能となる。

【選択図】 図7



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

屋内の建築材料として使用される壁部材であって、支持部材の表面に磁性薄板が張着され、当該磁性薄板の表面に壁紙が重畳されていることを特徴とする壁部材。

【請求項 2】

磁性薄板は支持部材の表面の一部に張着され、壁紙は支持部材の表面の全面に重畳されている請求項 1 に記載の壁部材。

【請求項 3】

支持部材を、その表面が鉛直面となるように立て掛けた際に、磁性薄板は前記支持部材の下端から 1 m 以上の部分に張着されている請求項 2 に記載の壁部材。

10

【請求項 4】

壁紙には全面に同一の模様もしくは色彩が施されている請求項 1 ないし 3 のいずれか一項に記載の壁部材。

【請求項 5】

壁紙の、前記支持部材に前記磁性薄板が張着されている部位に対応する部位は、他の部位と異なる色彩もしくは模様が施されている請求項 1 ないし 3 のいずれか一項に記載の壁部材。

【請求項 6】

壁部材の製造方法であって、支持部材の表面に磁性薄板を張着し、その後当該磁性薄板の表面に壁紙を重畳することを特徴とする壁部材の製造方法。

20

【請求項 7】

壁紙は磁性薄板の端縁部を覆うように重畳する請求項 6 記載の壁部材の製造方法。

【請求項 8】

請求項 1 ないし 5 のいずれか一項に記載の壁部材の使用方法であって、前記支持部材の前記磁性薄板が張着されている部分に対応する部位の壁紙の表面に、磁石を着脱自在に吸着させ、前記磁性薄板と磁石とで目的物を挟持することを特徴とする壁部材の使用方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は屋内の建築材料として使用される壁部材であって、その表面に磁石で目的物を着脱自在に装着することが可能な壁部材と、その製造方法および使用方法に関するものである。

30

【背景技術】

【0002】

従来の屋内の壁部材は、一般に、支持部材としての非磁性体である石膏ボードに直接壁紙が張着されており、前記壁部材に各種用紙やパンフレット、カレンダーなどの目的物を係止するためには、壁紙の上から石膏ボードにヒートンや釘を打ち付けたり、粘着テープで固定せざるを得なかった。

【0003】

しかしながら、壁紙の上からヒートンや釘を打ち付けたり粘着テープで固定すると、石膏ボードが傷んだり、壁紙が汚損され、目的物を暫定的に係止するような場合、あるいは頻繁に取り換える場合には不適切であった。

40

【0004】

なお、冷蔵庫の外側は一般に磁性体であるスチールが使用されているので、レシピや買い物カードなどの用紙類を磁石で前記冷蔵庫の外側に着脱自在に係止することは周知であるが、これは冷蔵庫に限られる。

【0005】

この問題を解決し得る技術は他に見られないが、スチールペーパーの特許文献 1 として下記のものが開示されている。

【先行技術文献】

50

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】 実開平7-15332号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

上記の特許文献にはスチールペーパー自体が開示されているだけで、これを壁部材に適用することは開示されていない。

【0008】

本発明は、通常の室内や会議室、学校などの教室の側壁に応用することによって、壁部材を汚損することなく、用紙類等の目的物を壁部材に自由に着脱せんとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

(1) 本発明は、屋内の建築材料として使用される壁部材であって、支持部材の表面に磁性薄板が張着され、当該磁性薄板の表面に壁紙が重畳されていることを特徴とするものである。

【0010】

本発明によれば、支持部材の表面に磁性薄板が張着され、当該磁性薄板の表面に壁紙が重畳されているので、前記壁紙の表面に、当該壁紙を介して前記磁性薄板に磁石を吸着させることができ、当該磁石と前記壁紙との間に用紙類を着脱自在に挟持させることが可能となる。

【0011】

(2) 本発明では、磁性薄板は支持部材の表面の一部に張着され、壁紙は支持部材の表面の全面に重畳されていることが望ましい。

【0012】

一般的に、用紙類を壁面のどの位置に張り付けるかは、その目的によって自ずと決まるもので、壁面の全面にわたって張り付けることはあまり考えられない。

そこで、前記支持部材の表面の必ずしも全面に磁性薄板を張着する必要はなく、必要とされる部分にのみ張着すればコストも安価となる。

【0013】

(3) 本発明では、支持部材を、その表面が鉛直面となるように立て掛けた際に、磁性薄板は前記支持部材の下端から1m以上の部分に張着されていることが望ましい。

【0014】

前述のように、用紙類を壁面のどの位置に張り付けるかは、その目的によって自ずと決まるもので、一般に下端部近傍に張り付けられることは考え難いので、前記磁性薄板を前記支持部材の下端から1m以上の部分に張着することが適している。

【0015】

(4) 本発明では、壁紙表面の全面に同一の模様が施されていてもよい。壁紙の全面に同一の模様が施されていると、前記磁性薄板が前記支持部材のどの位置に張着されているか一見不明であり、一般の壁面と変わることがなく、違和感がない。

【0016】

(5) 本発明では、壁紙の、前記磁性薄板が張着されている部位には、他の部位と異なる色彩もしくは模様が施されていてもよい。

【0017】

壁紙の全面に同一の模様が施されていると、磁性薄板がどの位置に張着されているか一見不明であり、用紙類をどこに磁石で張り付けることができるかがわかりにくい。特にその室内を初めて使用する者にとっては、大変不便に感じることもあり得る。

【0018】

そこで、壁紙の前記磁性薄板が張着されている部位には、他の部位と異なる色彩もしくは模様を施しておけば、用紙類の貼り付け可能場所が一目でわかることになる。

【0019】

(6) 本発明は、壁部材の製造方法であって、支持部材の表面に磁性薄板を張着し、その後当該磁性薄板の表面に壁紙を重畳することを特徴とするものである。

【0020】

(7) 本発明では、壁紙は磁性薄板の端縁部を覆うように重畳してもよい。壁紙で磁性薄板の端縁部を覆うと、前記磁性薄板はより確実に支持部材に張着される。

【0021】

(8) 本発明は、前述の壁部材の使用方法であって、前記磁性薄板が張着されている部分の壁紙の表面に磁石を着脱自在に吸着させ、前記磁性薄板と当該磁石とで用紙類等の目的物を挟持することを特徴とするものである。

10

【発明の効果】

【0022】

前述のように、本発明によれば、支持部材の表面に磁性薄板が張着され、当該磁性薄板の表面に壁紙が重畳されているので、前記壁紙を破損や汚損することなく目的の用紙類などを自由に前記壁紙上に架け替えることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図1】 本発明の一実施の形態の、支持部材の表面の全面に磁性薄板が張着された壁部材の正面図である。

【図2】 本発明の一実施の形態の、支持部材の表面の中央部近傍に磁性薄板が張着された壁部材の正面図である。

20

【図3】 本発明の一実施の形態の、支持部材の表面の中央から上方にかけて磁性薄板が張着された壁部材の正面図である。

【図4】 本発明の一実施の形態において、支持部材に磁性薄板を張着し次いでその表面に壁紙を重畳する工程を示す正面図である。

【図5】 本発明の一実施の形態の、壁紙の前記磁性薄板が張着されている部位には、他の部位と異なる模様が施されている壁部材の正面図である。

【図6】 本発明の一実施の形態の壁部材の縦断面図である。

【図7】 本発明の一実施の形態の壁部材の部分拡大側面図である。

【発明を実施するための形態】

30

【0024】

図1は、支持部材の表面の全面に磁性薄板が張着された壁部材の正面図で、一般的に多用される支持部材としての石膏ボード1の表面に、磁性体にてなるスチール薄板2が張着されている。

【0025】

前記スチール薄板2は厚さが0.1mmないし0.3mm程度が適当で、裏面に両面テープが付着されており、当該両面テープの付着側が前記石膏ボード1の表面側となるように張着されている。

【0026】

なお、前記スチール薄板2はパンチングメタルのように多数の開孔が形成されていてもよく、また金網状のものでもよい。

40

【0027】

また、前記両面テープに代えて、前記スチール薄板2を接着剤で石膏ボード1の表面に張着してもよい。

【0028】

図2は、前記石膏ボード1の表面の中央部近傍に前記スチール薄板2が張着された壁部材の正面図で、スチール薄板2の下端は前記石膏ボード1の下端から寸法Lだけ上方に位置している。この寸法Lは1m以上が適当である。

【0029】

図3は、前記石膏ボード1の表面の中央付近から上端にかけて前記スチール薄板2が張

50

着された壁部材の正面図である。

【0030】

図4は、前記石膏ボード1の表面に前記スチール薄板2を張着し、次いでその表面に壁紙3を重畳する工程を示す正面図で、先ず適当な大きさに切断した前記スチール薄板2を前記石膏ボード1の表面に張着し、次いで前記スチール薄板2の表面に、前記石膏ボード1と同一寸法の一般的な壁紙3を重畳するものである。

【0031】

図5は、壁紙3の前記スチール薄板2が張着されている部位3aには、他の部位3bと異なる模様又は色彩が施されている壁部材の正面図で、図3に示すスチール薄板2と同一のスチール薄板2が張着されているものである。

10

【0032】

なお、図6に示すように、前記壁紙3は前記スチール薄板2の端縁部を覆うように重畳することが望ましい。かように壁紙3でスチール薄板2の端縁部を覆うと、前記スチール薄板2はより確実に前記石膏ボード1に張着される。

【0033】

以上のように、壁紙の前記スチール薄板2が張着されている部位3aに、前記スチール薄板2が張着されていない部位3bと異なる色彩もしくは模様を施しておけば、用紙類4（図7参照）の貼り付け可能場所が一目でわかることになる。

【0034】

図7は、壁部材に用紙類4が磁石によって固定されている状態の部分拡大側面図で、この図から明らかなように、前記用紙類4は、前記スチール薄板2の表面に磁石5で着脱自在に固定されている。

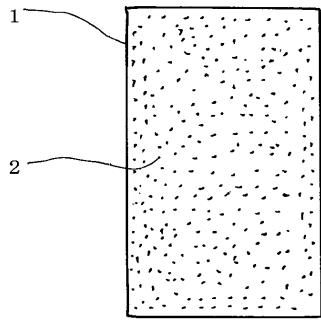
20

【符号の説明】

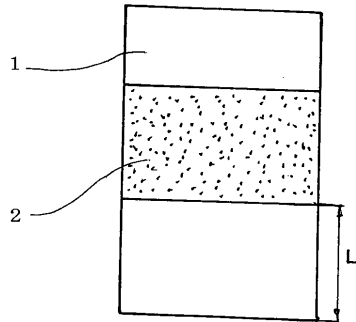
【0035】

- 1 石膏ボード（支持部材）
- 2 スチール薄板（磁性薄板）
- 3 壁紙
- 4 用紙類（目的物）
- 5 磁石

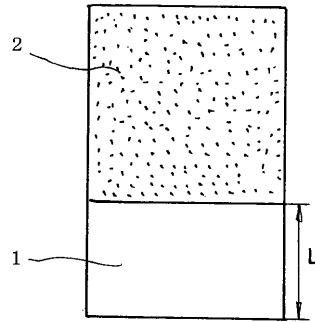
【図 1】



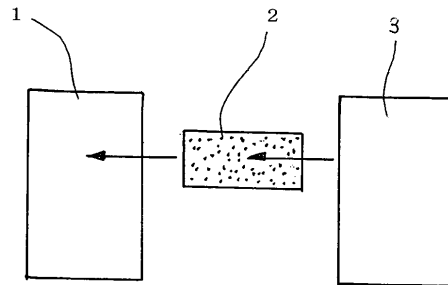
【図 2】



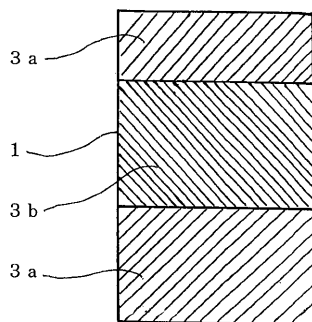
【図 3】



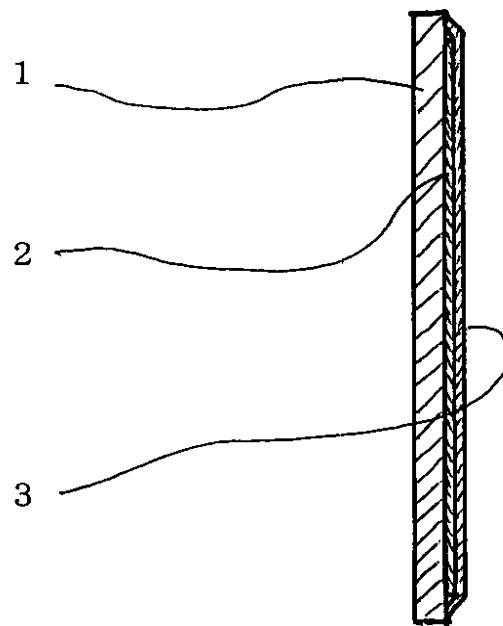
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

